

平成22年度 第15回ジャパンオープンハンドボールトーナメント 試合結果・戦評報告書

競技日	8月16日(月)	試合番号	Bほ[B(4)]	回戦	準決勝
種別	男子	会場	キリンビバレッジ周南総合SC(B)		

Aチーム名 / (都府県)			Bチーム名 / (都府県)		
長崎社中			FOG		
(長崎県)			(千葉県)		
得点合計	小計		小計		得点合計
23	8	前半	8	22	
	15	後半	14		
		第1延長前半			
		第1延長後半			
		第2延長前半			
		第2延長後半			
		7mTC			

戦評

先制は速攻から FOG14 番花尾。FOG がやや高めのディフェンスラインであるため、長崎社中は中央に切れこもうとするが、FOG の寄せが早くシュートが決まらない。逆に FOG は速攻を仕掛けるが、長崎社中の戻りも早く得点には至らない。ロースコアのまま序盤を終える。12分過ぎ、速攻から長崎社中 8 番竹田が得点すると、FOG はポストから 2 番小川が決める。両チームともディフェンスラインの外からロングシュートを放ち、状況を打開しようとするが、両 GK の好セーブで得点できない。17分 FOG 8 番谷口が 2 分間退場の間に長崎社中は 11 番三宅がシュートを決め、同点に追い付く。その後は一進一退の状況が続き前半は 8 対 8 の同点で折り返す。

後半は FOG 2 番小川のポストプレーから。7mT、11 番三宅速攻も決まり 3 点差。勢いに乗るかに思われたが、長崎社中は 13 番岩尾の個人技などからすぐに追いつき、差がつかない。逆に 15 番貝本のシュートで逆転。さらに FOG のわずかに空いたスペースから突破を試みファールを誘い、7mT の権利を得る。9 番小川のシュートで 3 点差がついたところで FOG はたまらずタイムアウト。タイムアウト明けも長崎社中の勢いは衰えず、9 番小川が連続得点するなど一気に点差を広げた。終盤長崎社中は退場者が続き、苦しい展開となるが何とか逃げ切り、決勝進出を決めた。

記者氏名

森重 剛

送信日時

8月 日 () :

送信者サイン